

(3) 自己点検・評価

- 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性 (A 群)
- 外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性 (B 群)
- 自己点検・評価結果や外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性 (A 群) 大学院

2005 年度 (2006 年 3 月) に発行した「同志社女子大学の現状と課題 (自己点検・評価報告書) 」 [添付資料 (14)] は、すべての学内教職員および学外関係大学等へ送付し公表した。

自己点検・評価の結果については、情報公開の観点からも、印刷媒体でのみの公表だけでなく、ホームページに掲載するなど、広く学内外へ発信することが必要と考えており、2006 年度実施分の自己点検・評価からデータ媒体での公表を検討したい。

外部評価として、本学は、1998 年度に大学基準協会の「相互評価」を受けた。学校教育法の改正により、2007 年度には認証評価機関としての大学基準協会において「大学評価および認証評価」を受ける予定である。

また、学校法人同志社は、株式会社格付投資情報センター (R&I) より 2006 年 5 月 15 日付けにて「AA+ (ダブル A プラス) / 方向性安定的」の格付けが継続され、高水準の格付けを維持した。「AA+ (ダブル A プラス) 」は、21 段階ある格付けの上から 2 番目であり、学校法人で株式会社格付投資情報センター (R&I) からこのランクの格付けを取得・維持しているのは、現時点では同志社と早稲田大学、慶応義塾のみであり、同志社の経営と財務状況に対して、引き続き高い評価が与えられたものである。このことについては、ホームページ等様々な形で広く学内外に公表している。

格付けの取得・維持は、学外からの資金調達を目的としたものではなく、第三者機関による経営状況の客観的評価のひとつとして行うことで、同志社に対する社会的信頼性を高めるとともに、その結果を今後の学園経営に生かすためである。そのためには、すべてのステークホルダーに対して格付維持の決定について学内外に公表することは非常に重要であり、適切に行われているといえる。